

# 工明会大運動会（e-sports）活動報告書

航空宇宙工学A  
博士課程前期2年  
須田 源太郎

今年度もこのような素晴らしいイベントを企画してくださりありがとうございます。

私たちチーム航空宇宙工学Aは、新型コロナウイルスの影響により2年間開催が見送られていた工明会大運動会における、再建の立役者といっても過言ではない2022年度院生会代表の大河原拓氏が、満を持してリーダーを名乗り出て結成されたチームです。

大河原氏は、自身が車を運転する中で事故を起こしかけてしまい、運転に苦手意識を募らせてしまったバックグラウンドを持ちます。そこで現在は博士課程後期に進学して人間の操作に依存せずにロボットが自分自身で移動してくれる完全自律移動ロボットの研究に日々勤しんでいます。今回の種目であるマリオカートはいわば、ドライビングシミュレーションであり、本大会での成功経験により運転への苦手意識を払拭するという思惑もありました。そして何より、工明会の長を務めた経験や航空宇宙工学専攻をより盛り上げていきたいという想いから、D3で多忙を極める研究生活での傍ら、本番に向けて一緒に練習をしていただきました。残りのメンバーは、皆昨年度に4位の成績を修めたチームメンバーです。昨年度は中々練習の時間を取れなかったこともあり、各々が「今年こそは優勝！」といった熱い想いをもってリベンジを希望し、練習に取り組んでいました。約2か月前から、本番を想定して純正コントローラーを複数用意し、研究室にてマリオカートを快適にプレイできる環境を構築して練習に勤しんできました。特に大河原氏は好んで「ドラゴンロード」というコースの練習に励んでおり、一緒にプレイする私たちも気づけば皆得意コースとなっていきました。

そして大会当日、開会式にて決勝までのコースが発表される場面では、準決勝にてドラゴンロードが選ばれました。「4位の昨年度よりも圧倒的に練習してきた今年度は優勝間違いない」と互いに鼓舞しあっていました。しかしながら、大会当日の午前中に急遽大河原氏は今後の研究人生にも影響しうる重大なミーティングが入ってしまい、予選に参加することが不可能になりました。準決勝から参加する大河原氏に晴れ舞台に届けるべく、予選突破に向けて想いを新たにしました。そして予選のすべてのレースが終わるのをただ待つ私たちは「七大戦カツカレー」をむさぼり（写真を添付）、昔ながらの願掛けに我々の行く末を委ねていました。結果は1点差で予選落ち。少しでも良い順位を取りたいと欲を出してしまい、レースの終盤で練習の不十分であったショートカットに突っ込んだことが敗因でした。「1点差で落選する」というのは入試の体験談などでよく耳にするけれども、実際に起きることなんて到底ないだろうと高を括っていた我々は中々現実を受け入れることはできませんでした。しかしこの運動会を通して、一瞬の判断ミスがこれまで積み上げてきたものや、大きなチャンスを失ってしまう、そんな当たり前であるようで普段なかなか気づく機会の少ない学びを得ることができました。

優勝の景色しか見ていなかった私たちにとって悔いの残る結果となりましたが、不幸中の幸いにも我々の研究室では、来年度のマリオカートe-sportsの参加に意欲を示してくれている後輩がいます。そんな後輩のためにも、今回ご提供させていただくこの原稿、及び写真が来年度以降も工明会が存続し、そして今後より一層大盛況する一助となればこれ以上に嬉しいことはありません。

改めまして、この度はこのような素晴らしい経験・学びを得る場を設けてくださり、誠にありがとうございました。

（大河原氏には氏名掲載と記載内容のご許可を頂いております。）